

長引くコロナに負けず活発に活動

産業懇談会を紹介する連載の第5回目は第2金曜と第3火曜グループの世話人の方が、創意工夫に満ちた活動を披露する。両グループともに、長引くコロナ禍でも会員が集うことを楽しみにしている和気藹々とした雰囲気をお伝える。

第2金曜グループ

オンライン開催で高まった出席率
コロナ禍収束時には顔合わせての交流を

■設立:1998年7月 ■メンバー数:48人

世話人



鈴木 雅子

パソナグループ
エグゼクティブアドバイザー

上野 幹夫

中外製薬
取締役副会長

川本 明

アスパラントグループ
シニアパートナー

「第2金曜グループ」は異業種交流会のように、年齢や業種が異なる方たちが和気藹々と集っています。産業懇談会の中では、会員数は少ない方ですが、その反面、女性が7人と多いのも2金の特色でしょう。お試し参加されて、そのまま入会していただいています。

講演は外部講師とメンバーが半々ずつ務めています。新入会の方にはご自分の会社の業務に関して語っていただいています。お話を伺う側にとっては、社名は知っていても詳しい業務内容などを初めて知る良い機会となります。そのため、同じ経営者として参考になったり、共感を得たりすることがあります。

外部の方のお話では、地球の根源について2回に分けて拝聴したり、築地本願寺からオンラインで講演を伺ったりしました。施設見学では警視庁が印象的でした。110番受理の部署を訪れたとき、偶然にも事件に遭遇し、私たちにも緊張感が伝わる中での視察となりました。講演、見学ともに自分たちの業務から離れた内容であることも多く、知りたい、見てみたいけれどチャンスがなかっただけに有意義だったと思っています。

コロナ禍でも2金の活動は中止や延期にせず、オンラインならではの楽しさが味わえ、役に立つテーマを検討しています。オンラインの方が出席率が高まることも分かりました。コロナ禍でメンバーの方も行動が制約されることもあるかと思います。コロナ禍が収束して、お互いの顔を見ながら楽しいひと時を過ごす2金で一緒にできればと願っています。

【鈴木 雅子】

第3火曜グループ

同じ友の会を体現するまとまりの良さ
講演ではNHK大河にちなんだテーマも

■設立:1983年5月 ■メンバー数:68人

世話人



安田 育生

ピナクル
取締役会長兼社長兼CEO

河本 宏子

ANA総合研究所
取締役会長

浅野 敏雄

旭化成
常任相談役

「第3火曜グループ」の特徴は「同友会=同じ友の会」を体現するまとまりの良さです。メンバーは40代から70代、業種は重化学工業、金融、サービス業、コンサルティング業など多岐にわたります。また、最近では積極的に女性会員が参加し、ダイバーシフィケーションに富んだメンバー構成となりました。講演だけではなく、例会の会食時間での近況報告や、ゴルフ会などによって醸成されたメンバー間の親しさが、47%という、トップクラスの出席率につながっています。また、コロナ危機の厳しい環境にもかかわらず、2020年度も7人の新規メンバーが加入してくれました。

例会では、AIやフィンテックといった最先端の技術に関するものから、政治・経済や国際問題、文化や歴史まで多彩なテーマを選んでいきますし、毎年の旬の話題にも触れています。昨年9月には、NHKの大河ドラマ「麒麟がくる」にちなみ、明智光秀の子孫である、政治ジャーナリストの細川珠生さんに講演をしていただきました。また、日本銀行の雨宮正佳副総裁に、コロナ禍でニーズが増えてきた、デジタル通貨についてお話しいただきました。質が高く、魅力ある講演を続けるよう、メンバーの皆さんが盛り上げてくれています。

コロナ禍が続く中、第3火曜グループでは、メンバー同士が実際に顔を合わせる交流に価値を感じ、リアル会合を続けてきました。ただし、再度の緊急事態宣言が発令されましたので、リモート開催も検討していく予定です。感染状況を見ながら最適な運営を詰ってまいります。

【安田 育生】